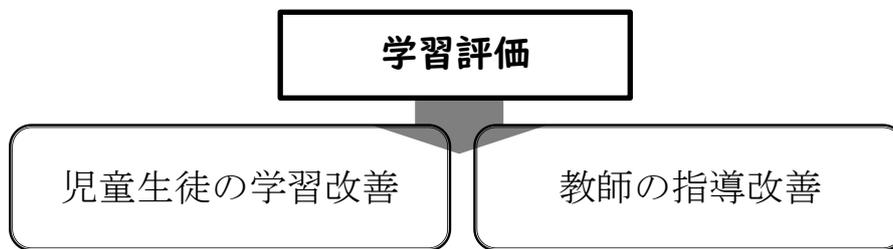


3 「指導と評価の一体化」のための学習評価

(1) 学習評価の意義と目的

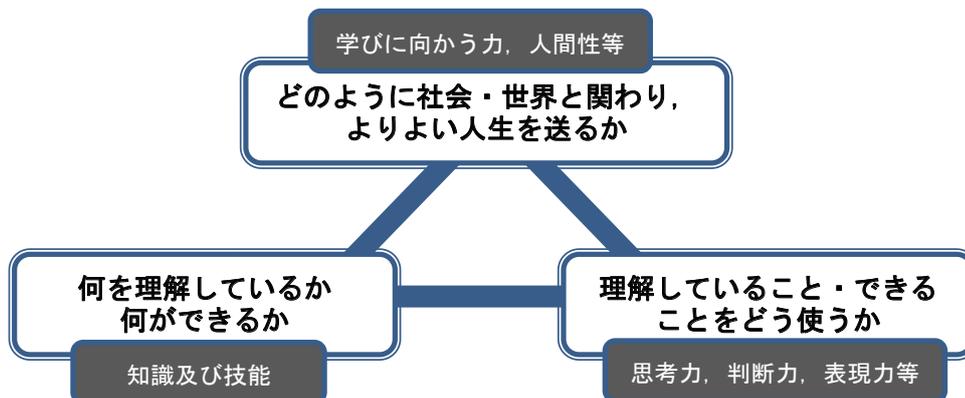
学習指導要領総則においては、学習評価の充実について以下のように示してあります。

- ・児童のよい点や進歩の状況などを積極的に評価し、学習したことの意義や価値を実感できるようにすること。また、各教科等の目標の実現に向けた学習状況を把握する観点から、単元や教材など内容や時間のまとまりを見通しながら評価の場面や方法を工夫して、学習の過程や成果を評価し、指導の改善や学習意欲の向上を図り、資質・能力の育成に生かすようにすること。
- ・創意工夫の中で学習評価の妥当性や信頼性が高められるよう、組織的かつ計画的な取組を推進するとともに、学年や学校段階を越えて児童の学習の成果が円滑に接続されるように工夫すること。



学習評価は、児童生徒の学習改善や教師の指導改善につながるものにしていくことが重要です。

(2) 評価の観点について



観点別学習状況の評価については、3つの柱で整理された育成を目指す資質・能力に対応するように、評価の観点も以下のように3観点到整理して示されています。

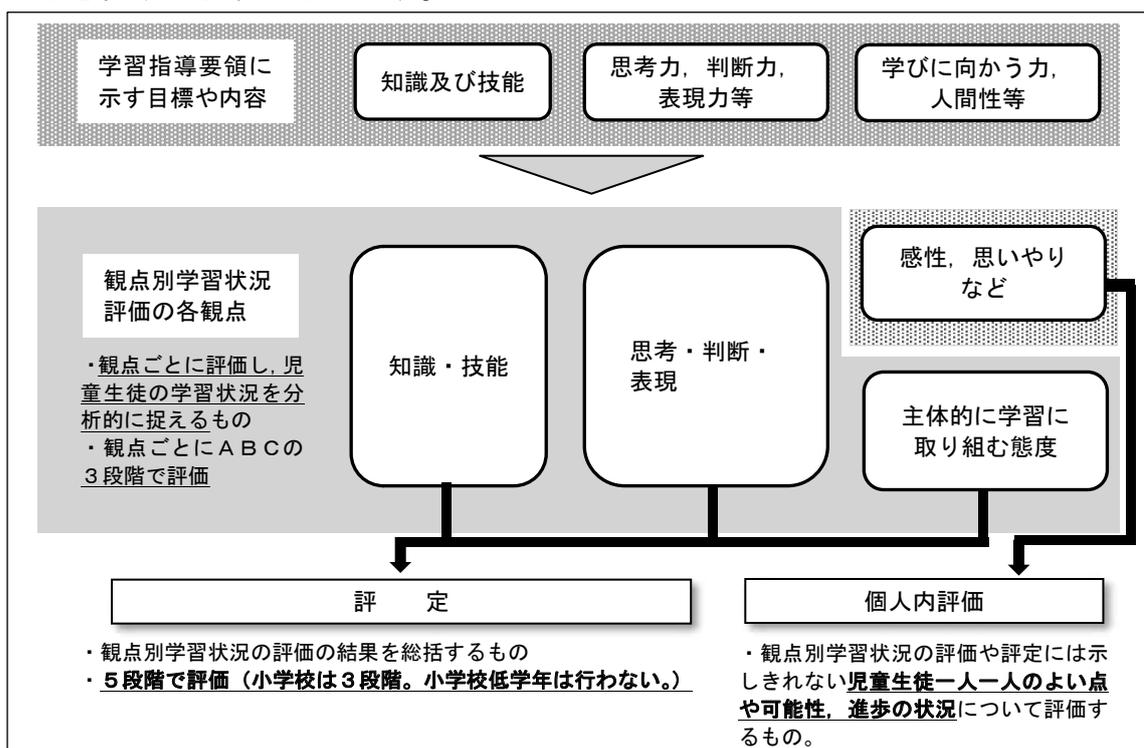
【旧】	評価の観点	【新】	評価の観点
	関心・意欲・態度		知識・技能
	思考・判断・表現		思考・判断・表現
	技能		主体的に学習に取り組む態度
	知識・理解		

(3) 評価の基本構造について

学習評価においては、学習状況を分析的にとらえる「観点別学習状況の評価」と、これらを総括的にとらえる「評定」の両方について実施します。

- ① 観点別学習状況
 学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を観点ごとに、
 「十分満足できる」状況と判断されるもの：A
 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：B
 「努力を要する」状況と判断されるもの：C
 のように区別して評価を記入する。
- ② 評定（第3学年以上）
 学習指導要領に示す各教科の目標に照らして、その実現状況を、
 「十分満足できる」状況と判断されるもの：A
 「おおむね満足できる」状況と判断されるもの：B
 「努力を要する」状況と判断されるもの：C
 のように区別して評価を記入する。

評価の観点の整理を踏まえて、各教科における評価の基本構造を図示化すると以下ようになります。



※ 「主体的に学習に取り組む態度」については

- ① 知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面
- ② ①の粘り強い取組を行う中で，自らの学習を調整しようとする側面
- という二つの側面を評価することが求められます。

具体的な評価の方法としては、学習カード等における記述、授業中の発言、教師による行動観察や児童生徒による自己評価や相互評価の状況を、教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いることなどが考えられます。

(4) 評価規準の作成のポイント

① 評価規準を作成する際の基本的な手順

各教科における「内容のまとめり」と「評価の観点」の関係を確認する



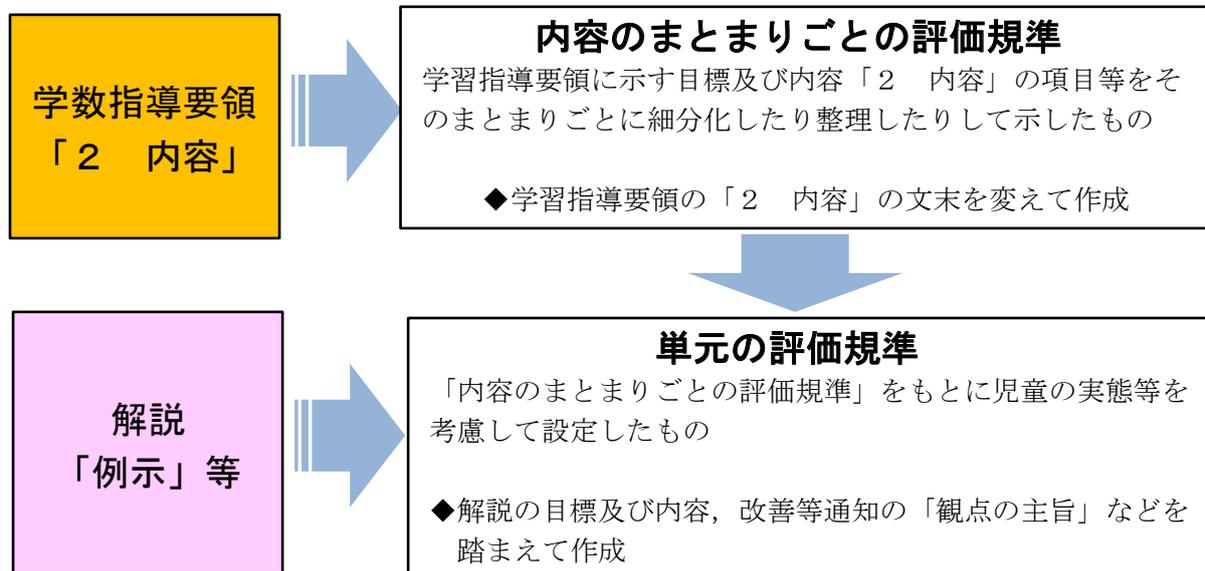
観点ごとのポイントを踏まえ、「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する

② 小学校体育科における「内容のまとめり」

小学校体育科における「内容のまとめり」は次のとおりです。

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
A 体づくりの運動遊び	A 体づくり運動	A 体づくり運動
B 器械・器具を使った運動遊び	B 器械運動	B 器械運動
C 走・跳の運動遊び	C 走・跳の運動	C 陸上運動
D 水遊び	D 水泳運動	D 水泳運動
E ゲーム	E ゲーム	E ボール運動
F 表現リズム遊び	F 表現運動	F 表現運動
	G 保健(1)健康な生活	G 保健(1)心の健康
	G 保健(2)体の発育・発達	G 保健(2)けがの防止
		G 保健(3)病気の予防

③ 「内容のまとめりごとの評価規準」と「単元の評価規準」の関係性



まず、低・中・高学年の各領域の全体像を俯瞰し、2学年にわたっての指導によって、各領域の内容が身についた姿を「内容のまとめりごとの評価規準」として設定します。

次に、実際の指導計画を考慮し、児童の学びの姿としてより具体化した「単元の評価規準」を作成します。

(5) 観点別評価について

第1学年及び第2学年

「B 器械・器具を使つての運動遊び～マットを使った運動遊び～」を例に

① 「知識・技能」の評価

- 「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する際のポイント

「知識」については、学習指導要領の内容の「(1) 次の運動遊びの楽しさに触れ、その行い方を知るとともに、その動きを身に付けること。」の「その行い方を知る。」と示している部分が該当し、評価規準は、「～の行い方を知っている。」として作成することができます。

「技能」については、「その動きを身に付ける」と示している部分が該当し、評価規準は、「～の動きを身に付けている。」として作成することができます。



上記の内容をもとに、評価の視点を整理します。

<「マットを使った運動遊び」における知識・理解の評価の視点>

マットを使った運動遊びの行い方について知っているとともに、いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転の動きを身に付けている。



さらに具体化し「単元の評価規準」を作成します。

<「マットを使った運動遊び」単元における知識・理解の評価規準>

- ① マットを使った運動遊びの行い方について、言ったり実際に動いたりしている。
- ② マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。
- ③ 手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりして遊ぶことができる。



単元の評価規準をもとに、「児童の具体的な姿の例及び評価方法の例」を指導と評価の計画に適宜(記録に残す評価等)取り入れます。

単元の評価規準	児童の具体的な姿の例及び評価方法の例
① マットを使った運動遊びの行い方について、言ったり実際に動いたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ マット遊びで行っているいろいろな遊び方の特徴を言ったり書いたりしている。(観察) ・ マットの上でのいろいろな遊び方をしようとしている。(観察)
② マットに背中や腹などをつけていろいろな方向に転がって遊ぶことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前転がり、後ろ転がり、だるま転がり、丸太転がりなどいろいろな転がり方を試し、遊んでいる。(観察・ICT)
③ 手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせたりして遊ぶことができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 背支持倒立、壁登り倒立、補助倒立などいろいろな倒立の行い方を試し、遊んでいる。(観察) ・ 仰向けや倒立からのブリッジを試し、遊んでいる。(観察)

② 「思考・判断・表現」の評価

- 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際のポイント

「思考・判断」については、学習指導要領の内容の「(2) 器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫するとともに、考えたことを友達に伝えること。」の「器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫する」と示している部分が該当し、評価規準は、「器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫している。」として作成することができます。

「表現」については、「～について考えたことを友達に伝えること。」と示している部分が該当し、評価規準は、「～について考えたことを友達に伝えている。」として作成することができます。



上記の内容をもとに、評価の視点を整理します。

＜「マットを使った運動遊び」における思考・判断・表現の評価の視点＞

器械・器具を用いた簡単な遊び方を工夫しているとともに、考えたことを友達に伝えている。



さらに具体化し「単元の評価規準」を作成します。

＜「マットを使った運動遊び」単元における思考・判断・表現の評価規準例＞

- ① 坂道やジグザグなどの複数のコースでいろいろな方向に転がることのできるような場を選んでいる。
- ② 腕で支えながら移動したり、逆さまになったりする動きを選んでいる。
- ③ 友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書いたりしている。



単元の評価規準をもとに、「児童の具体的な姿の例及び評価方法の例」を指導と評価の計画に適宜（記録に残す評価等）取り入れます。

単元の評価規準	児童の具体的な姿の例及び評価方法の例
① 坂道やジグザグなどの複数のコースでいろいろな方向に転がることのできるような場を選んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 坂道やジグザグコースの特徴に応じて、いろいろな転がり方を選び、遊んでいる。（観察） ・ 自分のしたい転がり方が行いやすい場を選び、遊んでいる。（観察）
② 腕で支えながら移動したり、逆さまになったりする動きを選んでいる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ アザラシ歩きなど動物の真似をした動きや、アンテナやブリッジなど建造物をイメージした動きのうち、自分のしたい動きを選び、遊んでいる。（観察）
③ 友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に伝えたり書いたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達の動きを見て、楽しいところや工夫しているところなどを友達や教師に伝えている。（観察） ・ 自分の動きやグループでの遊び方で工夫したことを言ったり書いたりしている。（観察・カード）

③ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する際のポイント

「主体的に学習に取り組む態度」については、学習指導要領の内容の「(3) 運動遊びに進んで取り組み、順番やきまりを守り誰とでも仲良く運動したり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすること。」の全てが該当し、評価規準は、「運動遊びに進んで取り組もうとし、順番やきまりを守り誰とでも仲良く運動をしようとし、場や器械・器具の安全に気を付けたりしている。」として作成することができます。



上記の内容をもとに、評価の視点を整理します。

＜「マットを使った運動遊び」における主体的に学習に取り組む態度の評価の視点＞

器械・器具を使っての運動遊びの楽しさに触れることができるよう、運動遊びに進んで取り組もうとしていたり、順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動をしようとしていたり、場や器械・器具の安全に気をつけている。



さらに具体化し「単元の評価規準」を作成します。

＜「マットを使った運動遊び」単元における主体的に学習に取り組む態度の評価規準例＞

- ①動物の真似をして腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうとしている。
- ②順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動遊びをしようとしている。
- ③場の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。
- ④場の安全に気をつけている。



単元の評価規準をもとに、「児童の具体的な姿の例及び評価方法の例」を指導と評価の計画に適宜（記録に残す評価等）取り入れます。

単元の評価規準	児童の具体的な姿の例及び評価方法の例
①動物の真似をして腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・アザラシ歩き、クマ歩き、ウサギ跳び、カエル跳びなど、動物などの真似をした遊び方を試したり、前転がりや後ろ転がりなどの転がり方を試したりしている。(観察・カード) ・いろいろな運動遊びに繰り返し取り組んでいる。(観察・カード)
②順番やきまりを守り誰とでも仲よく運動遊びをしようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番を守り、遊んでいる。(観察) ・遊び方の約束を守り、回ったり跳んだりしている。(カード) ・グループの友達と仲よくマット遊びをしている。(観察)
③場の準備や片付けを友達と一緒にしようとしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協力してマットや用具の準備や片付けをしたり、声をかけ合って平均台を運んだりしている。(観察)
④場の安全に気をつけている。	<ul style="list-style-type: none"> ・マットのずれを見逃さずに整えたり、危険な回り方をしないようにしたりしている。(観察)